

## 剣道の部

### 1. 種目 (1) 団体戦 (2) 個人戦

### 2. 参加

#### (1) 男子団体

自由参加

#### (2) 女子団体

自由参加

(3) 男子団体 監督, 正員 5 名, 補員 2 名 合計 8 名以内

(4) 女子団体 監督, 正員 5 名, 補員 2 名 合計 8 名以内

#### (5) 男子個人

安 芸	香長土	高 知	高 吾	幡 多	合 計
1	7	16	5	3	32

#### (6) 女子個人

安 芸	香長土	高 知	高 吾	幡 多	合 計
1	9	14	5	3	32

※ただし、男女とも各校 4 名以内とする。

### 3. 方法及び規定

#### (1) 試合上の注意

- ① 監督, 選手, 役員以外の会場内への入場を禁止する。
- ② 外部指導者(コーチ)は外部指導者(コーチ)確認書に基づき、事前に外部指導者確認書(コーチ)を運営本部に提出すること。また、学校長が引率・監督として承認した場合にはそれぞれの資格を認める。
- ③ 会場内へのストップウォッチの持込みは認めない。
- ④ アイガード, ポリカネット面, 化学繊維竹刀の使用は認める。
- ⑤ 竹刀の検査(計測、計量)を 8:00~10:30 の間に行う。竹刀の長さは男女とも 114cm(約 3 尺 7 寸) 以内, 重さは男子が 440g 以上, 女子は 400g 以上とする。竹刀の先の大きさは, 男子直径 25mm 以上, 女子直径 24mm 以上なければならない。先革の長さは 50mm 以上でなければならない。

**男子ちくとう直径 20mm 以上、女子ちくとう直径 19mm 以上とする。**

- ⑥ 不正な竹刀を使用した場合, 団体戦は, その後試合を継続することができない。個人戦は, その時点で負けとする。

不正な竹刀とは

ア. 「ビニールやセロテープを巻いた竹刀」

イ. 「異物を挿入した竹刀」

(異物とは、先革内の芯、柄頭のチギリ鉄片以外のすべてをいう)

ウ. 「柄革に検印のない竹刀」

- ⑦ 剣道用具着装については、面ひもは結び目より40cm以内、小手ひもはきちんと結ばせる。
- ⑧ サポーターなど（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用については、医療上必要と認める場合に限り使用を認める。使用する場合には届け出た（審判主任）うえで許可を得ること。届け出と違うものを使用した場合は、替えさせる。  
指先単独でのテーピングは届け出は不要とする。  
また、サポーターなどは、肘や膝などにつける物を足に使用したり、ゴムや革及びすべり止めを底に貼った物等の使用は禁止する。
- ⑨ 目印については各校で、幅 5cm、長さ70cmのものを紅白各 5 本は用意すること。
- ⑩ 服装は、剣道着及び袴を着用し、垂れの前に〇〇中、姓を明記し、同姓のいる場合は、姓の右下に小さく名前の頭文字を明記すること。

## (2) 試合運営に関すること

- ① 団体戦・個人戦ともトーナメントで試合を行う。  
ただし、団体戦出場校が7校以下の場合、リーグ戦による予選を行い、決勝トーナメントによって順位を決定する。
- ② 個人戦及び決勝トーナメントの勝敗について
  - ア. 試合は3本勝負とし、制限時間3分間とする。団体戦において勝負が決しない場合は引き分けとする。  
個人戦の場合は、勝負が決するまで行い、延長戦は2分ずつに区切る。
  - イ. 個人戦及び団体戦の3位決定戦は行わない。
  - ウ. 勝敗の決定は、勝者数、勝ち本数による。同数の場合は、任意の代表戦を行う。
  - エ. 代表戦は、その試合に出場した選手の中から選出し、勝敗の決するまで1本勝負を行い、延長戦は2分ずつに区切る。
- ③ 予選リーグを実施する場合の勝敗について
  - ア. 得点は、勝ちが1点、引き分けは0.5点、負けは0点とし、得点、勝者数、総本数の順で順位を決める。
  - イ. 勝敗の決定は、勝者数、勝ち本数による。同数の場合は引き分けとする。
  - ウ. リーグ1位または2位が2校の場合は、任意の代表戦を行う。代表戦は、登録選手7名の中から選出し、一本勝負を行う。試合時間は3分間とし、勝敗が決しない場合は延長戦を2分に区切り勝敗が決するまで行う。
  - エ. リーグ1位または2位が3校以上の場合は、任意の代表者による代表者戦を三本勝負、時間は3分、勝敗が決しない場合は延長戦を2分に区切り勝敗が決するまで行う。任意の代表者は試合ごとの変更を認める。但し、試合順は同じとする。
  - オ. 決勝トーナメント進出校が決定するまで行う。
  - カ. 一度選手が試合から去った場合、トーナメント戦同様、再び選手として

出場できない。（代表者戦においてはこの限りではない。）

- ④ オーダーは、申し込みのとおりで変更は認めない。
- ⑤ 正員に不足のある場合、3名であれば、先鋒・中堅・大将に位置させ、4名であれば、先鋒・中堅・副将・大将に位置させること。
- ⑥ 一度、選手が試合から去った場合、再び選手として出場できない。
- ⑦ 公正を害する行為「変形な構え等の防御態勢」をとった場合は、1回目は、「合議」の上「指導」、2回目以降は、「合議」の上「反則」とする。
- ⑧ 「突き技」は禁止とし、反則とすることもある。（技としては反則とする。）
- ⑨ 上段の構えはとらせない。隻腕については、その都度協議する。
- ⑩ 二刀については、使用させない。
- ⑪ 片手打ちは、有効打突としない。
- ⑫ 全日本剣道連盟より発出された「主催大会実施にあたってのガイドライン」及び日本中学校体育連盟剣道競技部から発出された「試合・審判に関する統一事項」を遵守する。

ア. 試合者には、「面マスク」と、鼻と口を覆う程度の大きさのシールド（マウスシールド）の着用を義務付け「面マスク」は鼻まで覆うこととする。

イ. 試合者は、鏝競り合いを避ける。やむを得ず鏝競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、掛け声は出さない（引き技時の発声は認める）。

ウ. 「鏝競り合いの解消」は、お互いに一旦間合いを完全に切ることとし、一方が分かれようとするところに着いていく、追いかける行為や「鏝競り合いの解消」途中で、竹刀を（裏に回したり、開いたり、下げたり、竹刀をたたいたりして）間合いを切ったり完全に間合いが切れてないところで前に出たり、技を出したりする行為は反則となる場合がある。

#### 4. 四国大会出場資格

- (1) 団体は、優勝チーム及び準優勝チームをもってあてる。
- (2) 個人は、男女とも、上位8名をもってあてる。

#### 5. 全国大会出場資格

- (1) 団体は、優勝チームをもってあてる。
- (2) 個人は、男女とも、上位2名をもってあてる。